

こうじ 工事の げんば 現場より

旧矢筈原家住宅 保存修理事業

8月1週目

今はこんな様子だよ。



茅葺屋根の葺替作業は順調に進行しており、下から順次葺き上げていき、頂上（棟）付近の解体作業まで実施しました。解体しながら棟周辺の茅の葺き方を調査し、また棟周辺の木部の破損状況を確認して、修理の内容を検討しました。調査結果をもとに、棟付近の葺きの作業に取り掛かっていきます。



少しずつ葺き進め、大きな屋根もだいぶ出来上がってきました。園路からもご覧いただけるようになっています（左写真）。現場内足場上から見上げた様子（右写真）。



棟部分の解体作業の様子。「鳥踊り」（下図参照）を取り外しました。

棟を解体した後に行った調査の様子。棟木（鼠はしり）は健全で交換の必要はありませんでしたが、藤かけは端部が腐朽していたため、修理の検討を行いました。



過去の取り組み

ねずみ
鼠はしり

がっしり
合掌材の交差部に置かれる棟木

ふじ
藤かけ

棟に置く棟積み茅（ムナガヤ）を固定するためのネソ等を掛ける材

よりい
鎧茅

破風（屋根の端部分）に整えた茅束を段を付けて取り付けしたもの。破風板と屋根との間の隙間を埋める役割と、見た目を良くするデザインとしての意味もあると考えられます。

むなづ
棟積み茅（ムナガヤ）

屋根の頂部（棟）に積んだ茅束。葺き仕舞いの納まりであり、また雨漏りのリスクが一番大きい箇所のため、厚く茅束を重ね、その上にさらに杉皮を3枚重ねます。

棟押さえ丸太

棟押さえ上丸太

からす
鳥踊り

厚く積んだムナガヤを押さえつけるため、最上部に棟押さえ丸太を棟方向に流し、その上に棟押さえ上丸太を置く。棟押さえ上丸太と、屋根の途中に差し込む形で設けた鳥踊りを藤蔓で結びつけます。（現在は藤蔓が劣化により切れる可能性を想定し、結束は番線で行い、飾りとして藤蔓を取り付けています。）

※各部の名称は、同じ合掌造りでも地域により異なります。ここに記載している名称は『重要文化財旧矢筈原家住宅移築修理工事報告書』（1960年）に基づきます。